



# 大台ヶ原

自然再生推進計画調査 (国立公園・環境省)

## 生態系の観点からの詳細な調査と 学識経験者等による検討

### 大台ヶ原について

吉野熊野国立公園の核心部を形成する大台ヶ原は、紀伊半島中央部の東より、奈良・三重両県の県境に位置する高原状の山地です。標高1300mから1600mにかけて台状の隆起準平原を呈し、周囲は準平原の残丘といわれる日出ヶ岳(1695m)をはじめとする峰々や、滝、絶壁、深い谷に囲まれています。

大台ヶ原は、屋久島と並ぶわが国屈指の多雨地であり、年間降水量が4800mmに達する一方、年平均気温は6℃内外で北海道内陸部と同等に寒冷です。

大台ヶ原には周辺地域から孤立したかたちで、トウヒやブナの原生的な自然林がよく残っています。

ブナ林は西南日本では最大規模、また、トウヒ林は、まとまった群落としては分布のほぼ南限にあたり、学術的にも価値の高いものです。野生生物も多く生息しており、生物多様性の高い生態系としてわが国の自然地域の中で重要な位置を占めています。

### 森林の衰退

大台ヶ原では各種の要因が絡み合い、森林の衰退が進んでいます(右頁参照)。

### 自然再生推進計画調査の実施

環境省では、衰退の連鎖に陥っていると考えられる大台ヶ原の森林生態系を健全なものとしてよみがえらせる必要があるとの認識のもと、平成14年度より学識経験者、地方公共団体、NPO等で構成される「大台ヶ原自然再生検討会」を設置し、調査・検討を実施しています。



オオダイガハラサンショウウオ



ツクシヤクナゲ



検討会



トウヒの樹皮をはがすシカ